

図書館だより



no.239

2023(令和5)年1月19日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218

Fax 024-536-4787

<https://www.library.fcs.ed.jp/>



イベントのご案内

福島県立図書館×福島医大×福島民報社連携講座

『図書館に行こう!』

動いて学ぶ・新聞で学ぶ!

明日の元気・家族の健康

新聞や、体の健康に関する講義の他、図書館の見学もあります。

日時:令和5年2月4日(土)

第1部/小学生と保護者対象 10:00~12:00

第2部/一般対象 13:00~15:00

場所:福島県立図書館 第1研修室

定員:第1部、第2部それぞれ24人(先着順)

持参物:筆記用具

主催 福島民報新聞社

共催 福島県立医科大学 福島県立図書館

<申込方法>

以下のいずれかの方法でお申し込みください。

・福島県立図書館へ電話(024-535-3220)

・来館(総合案内カウンター、こどものへや)

【お問い合わせ】

福島県立図書館(電話:024-535-3220)

～東日本大震災から12年

福島の子どもたちに伝えたい絵本～

『はしれディーゼル機関車デーデ』

講演会

東日本大震災直後、物流が途絶えた福島にディーゼル機関車を走らせ、燃料を届けてくれた機関車がモデルとなったのが絵本『はしれディーゼルきかんしゃデーデ』です。震災から12年、デーデの作者・すとう あさえさんと鈴木 まもるさんによる講演会を開催します。

日時:令和5年2月25日(土曜日)

12時50分から16時10分まで

場所:福島県立図書館 講堂

定員:120名

その他:参加無料

<申込方法>

以下のいずれかの方法でお申し込みください。

・福島県立図書館へ電話(024-535-3220)

・来館(総合案内カウンター、こどものへや)

【お問い合わせ】

福島県立図書館(電話:024-535-3220)

展示のご案内

<企画展示>

『時代を映してきた雑誌たち』

期間:2月12日(日)まで

場所:企画展示コーナー



<ミニ展示>

『徳川家康とその時代』

期間:2月12日(日)まで

場所:センタホール平台展示コーナー



図書特別整理期間のお知らせ

令和5年2月13日(月)～2月23日(木)まで休館いたします。

※上記期間中ご返却の際は、図書館正面玄関横の「返却ポスト」をご利用ください。

新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

人文・自然・社会

『子犬の絵画史』金子 信久／著 講談社 2022.8
721.025/カ 228

動物を描いた日本絵画は数多くありますが、本書は犬、それも「子犬」の絵画に焦点を当て、その歴史を概観しています。

日本の子犬画は、中国や朝鮮の絵画に影響を受け、江戸時代から描かれるようになったとみられており、俵屋宗達、伊藤若冲、円山応挙などの有名な画家たちの作品が残っています。特に、円山応挙の描くリアルで愛らしい子犬の絵は当時から人気があったそうで、作品数も多く、本書でも中心的に紹介されています。

他にも応挙の弟子・長沢蘆雪の「ゆるい」子犬画や近代の子犬画など、様々な作品が紹介されています。お気に入りの子犬を探してみたいはいかがでしょうか。

『旅する地球の生き物たち ヒト・動植物の移動史で読み解く 遺伝・経済・多様性』ソニア・シャー／著 築地書館 2022.10 468/ソ 22X

私たち人類も含めた地球上の生き物が、本来の生息地を離れて「移動」する理由とは何でしょうか。食べものを探して、敵に追われ、安住を求めて、種の存続のために…多様で複合的な理由が重なり、その時その生物は未知なる地への旅立ちを選択してきました。

科学ジャーナリストである著者が目を向けたのは、地球規模の大きな視野で捉えた移動全史です。

もしも地殻変動などで国土が沈没することになったら、日本国民の大移動は実現されるのでしょうか。本書からは、フィクションが描く世界も日常の先にあるかもしれない未来として考察することができます。

『日本喪服文化史』増田 美子／著 東京堂出版 2022.10 385.6/マ 22X

幽霊といえば額の白い三角巾が定番ですが、白い三角巾が幽霊の象徴となったのはなぜでしょうか。また、近年日本で葬式に参列する際の喪服の色は「黒」が主流ですが、いつ頃から「黒」の喪服が一般的になったのでしょうか。本書では、葬送儀礼に欠かせない喪服や死装束の日本での変遷について、縄文時代から現代まで様々な資料に基づき丁寧にまとめられています。葬送儀礼とその装いから、日本人の死に対する意識を明らかにすることを試みた一冊です。

児童・児童図書研究

『私のことば体験』松居 直／著 福音館書店 2022.9
J289.1/マ

本書は戦後、日本の児童文学界を牽引し昨年11月に亡くなられた松居直さんによる、月刊誌『母の友』（福音館書店）での連載をまとめたものです。現代では言わずと

知れた作家が数多く登場し、彼らが児童文学界で活躍するに至るまでの貴重なエピソードも載せられています。本の存在感自体が薄くなりつつある今、子どもたちが豊かな言葉と触れ合うためには何が必要であるのか、その生涯をかけて追及してきたことの、まさに集大成です。

安野光雅さんが担当された鮮やかな挿絵も見どころです。

雑誌・新聞

この時期は空気が澄んでいて、夜晴れていれば星空をきれいにみるすることができます。最近発行された雑誌から、宇宙に関する特集があるものをご紹介します。

『日経サイエンス』 Z405/S3/ 2023年2月号
(第53巻第2号, 通巻620号)

特集 「宇宙新時代」

『天文ガイド』 Z440.5/T3/ 2023年1月号
(第59巻第1号, 通巻第707号)

特集 「2023年注目の天文現象」

『ユリイカ』 Z911.5/Y16/ 2023年1月号
(第55巻第1号, 通巻798)

特集 「コペルニクス 『天球の回転について』から『チ。-地球の運動について-』へ」

地域

『ふくしまのおかず 秋冬編』 服部 一景／編著
開港舎, 河出書房新社(発売) 2022.6 L596.1/H7/1-2

福島の秋冬の旬の食材と、それらを使用した郷土の家庭料理を紹介した資料です。こづゆやニシンの山椒漬け、棒タラ煮、アンコウのどぶ汁など様々なレシピが、おいしそうな写真とともに掲載されています。また、「ふくしまおかず旅」として、各地域の食に関する話や生産者の話なども紹介されており、福島の食文化を楽しく学ぶことができます。シリーズには『ふくしまのおかず 春夏編』もあり、こちらもあわせておすすめの一冊です。

『旅と鉄道 2022年増刊12月号 おかえり！只見線全線復旧記念』 天夢人, 山と溪谷社(発売)

2022.12 L686.2/T7/130

2011年7月の新潟・福島豪雨で甚大な被害を受けた只見線が、昨年2022年10月1日、ついに全線運転再開となりました。本書は、その復旧を記念しての刊行です。只見線の美しい四季の風景や、沿線の紹介のほか、11年にわたる復旧の軌跡、全線開通初日の様子なども収録しています。また開業からの歴史を、豊富な写真資料とともに振り返ります。復活した只見線の雄姿をぜひご覧ください。